

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875201499		
法人名	有限会社日本健康管理システム		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	兵庫県神戸市西区前開南町2-13-6		
自己評価作成日	令和1年6月25日	評価結果市町村受理日	令和1年8月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ		
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号		
訪問調査日	令和1年7月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・自然が多く、季節を感じる事の出来る、立地条件のため近くの公園やガレージでの食事を定期的に行っている。
 ・夏祭りやクリスマス会には近隣に案内状を配り、参加頂いている。
 ・近くの畑で収穫された野菜や七夕の笹を分けて頂いたり、ご近所付き合いが少しずつ増えてきている。
 ・春には近くの田んぼに土筆を取りに行き佃煮を作り季節を感じて頂いている、
 ・手作りの食事、利用者様と一緒に調理や片付けを行っている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】・「ゆっくり・一緒に・楽しく」の事業所理念と全体目標及び各階の年度重点目標を各フロアに掲示し、管理者と職員は毎日読上げ日々の実践に繋げ、理念に基づく重点目標の実践に関し、毎月のフロア一会議や年度末に有効性の確認を図る仕組みが整備運用され、日常ケアの質向上を着実に推進している。
 【工夫点】・自治会がなく、老人会も協働に消極的な現状の中、社協推奨の地域イベントマップを作成し、配布アピールや夏祭り、クリスマス会では近隣に案内状を配り参加頂く等の工夫により地域の一員としての交流を図っている。・自然が多く季節を感じる立地条件を活用し、近くの公園やガレージでの定期的な食事会や春には近くの田に土筆を取りに行き佃煮をつくり季節を感じる工夫を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに掲示しており、管理者と職員は基本姿勢として毎日読上げると共に心に刻み、毎日の実践につなげ、折に触れ理念の意味の理解、実行できているか再確認している	「ゆっくり・一緒に・楽しく」の事業所理念と全体目標及び各階の年度重点目標を各フロアに掲示し、管理者と職員は毎日読上げ日々の実践に繋げ、理念に基づく重点目標の実践に関し、毎月のフロア会議や年度末に有効性の確認をしている。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の行事には出来るだけ参加し、自施設の行事のお知らせをしている。散歩や外出時に出会った方には挨拶をするように心掛けている。	施設立地地域には自治会がなく、老人会も協働に消極的な現状の中、社協推奨の地域マップを作成し、配布アピール工夫により地域の一員として協力し、地域や自施設行事案内や散歩等での出会い時挨拶を行い交流促進を図っている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方には認知症の方の理解や協力を依頼し、いつでも気軽に見学してもらえるよう対応している。行事には近隣の方にも来て頂くよう案内している		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価、実地指導の結果、改善した点を含め報告している。要望や意見は可能な限り運営に反映している	地域包括担当、同業他社等、利用者、家族の出席のもと現況報告、研修・勉強会、行事報告、事故・ヒヤリハット報告や評価後の改善報告を行い意見交換し、サービスの質向上に活かしている。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区の福祉課や保健課の方とは連絡をとったり入居者に関わることについての相談や報告など連携をとっている。	利用者特性より区の福祉課や保険課担当とは連絡を密に取り、相談・報告等の連携を取り協力関係を築いている。	今回評価結果の届出等や相談や報告時機会を活用し、ケアサービス効果例や工夫改善例等積極的な紹介が期待される。
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間教育に取り入れ、研修に参加し理解を深めるとともに今年度の身体拘束廃止委員会ではスピーチロックの無いよう話し合い取り組んでいく	年2～3回身体拘束廃止委員会による現状課題にもとづく計画的な研修を実践し、本年度はスピーチロック防止を掲げ身体拘束しないケアへの取り組みを推進している。玄関施錠は午前9時～午後5時迄施錠フリーとしている。	
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記と同様におこなっている。日々の言葉かけや介護についての意識を高めるように指導している	年3回研修計画にもとづき高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、過去発生事例等参考に、日々の声掛けやケア場面におけるヒヤリハット等予防活動を推進し防止に努めている。	

自己	者 第三	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に取り入れている。資料を回覧したり高齢や遠方の家族様に対し成年後見制度について話し合っている	年1回権利擁護や法令遵守と倫理研修を計画的に推進し、市民後見活用者も在籍し、資料回覧や高齢や遠方の家族に対し、個々の必要性に関し話し合いし、活用への支援をしている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明にそって説明し、疑問にもその都度答えている。入院された場合には再度解約について説明している	事前に契約資料等読上げ説明か家族関心事項重点説明かを確認し、意向に沿った十分な説明を行っている。関心の高い入院や看取り時対応等理解・納得を図っている。看取り希望が多い現状である。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の来訪時には必ず話をするようにしている。運営推進会議に利用者様、家族様にも参加して頂き、意見や要望をお聞きし可能な限り運営に反映させている	家族来訪時、運営推進会議参加、利用者変化等の迅速な家族への連絡等で意見や要望を聴く機会を持ち、意見や要望は可能なものは運営に反映させている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案等は随時聞くようにしている。内容によっては毎月の代表者会議で報告し組織全体で把握するよう努めている	毎月の各階フロア会議で職員の意見や提案等確認し、各月の代表者会議で報告し組織全体で把握するようにし、業務の見直し意見で朝夕の血圧測定を朝のみにする等反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チェックシートやスタッフシートを活用し向上心を持って働ける環境整備と能力や仕事への意欲の評価と処遇への反映に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修希望があれば参加できるよう勤務調整を行っている。ケアの質について出来ていない、力量不足が見られたら、その場で指導を行い知識、技術を身につけるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連絡会に参加し情報交換することで交流する機会を設け、サービスの質の向上に取り組んでいる		

自己	者	第三	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
					実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に本人、家族様と面談し馴染のある物、好きなもの等、詳しくお聞きし安心できる環境を整えるよう努めている		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望等をお聞きし、信頼関係を築くよう努めている		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の出来る事、出来ない事をお聞きし出来る事は見守りながらして頂き、今必要とされている事を支援するよう努めている		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に過ごし食事の同じものを一緒に食べご本人様の出来る事、したい事は介助、見守りを行いながら支援している		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の近況報告、面会時の会話等でコミュニケーションをとり何かあればすぐに連絡をしている		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会や家族様の同意のもと友人となじみの場所への外出支援を行っている	本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、関係を断ちきらないようにしている。釣りやパソコン教室の仲間が訪れたり、入居前の近所の方から電話が入る事もある。継続的な交流が図れるよう働きかけている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が話し合える環境を作り、作業を通して仲良くなって頂けるよう工夫をしている。また利用者様の性格などを考慮し座席を決めている		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	この一年は無いが本人様が不安を感じないよう支援し、移転先にも詳しく話し考慮して頂くよう努めている		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望に添える様、よく話を伺っている。意思疎通の難しい方には表情等によりくみ取るようにしている	日々のかかわりの中で話し掛け、一対一でゆっくり時間を取るようにしてる。言葉や表情などからその真意を推し量り、それとなく確認するようにしてる。本人はどうかの視点に立ち、話し合い進めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、家族様より、どのように暮らしてこられたかをお聞きし把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々観察し、異変を見逃さないよう努め、出来ることはして頂き、見守りながら意欲を引き出している		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を行い、その他気付いたことがあればその都度話し合い介護計画を作成している	本人及び家族の状況は日々変化してる。思いや意見を聞き反映するように努めている。毎月のフロア会議で気づき、意見、要望を出し合い、様子を見ながら臨機応変に柔軟な対応を心がけ計画に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録、申し送り時に職員間で情報を密にしよりよい統一ケアに努めている。変化や要望に応じて、個々に見直し実践している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様な支援をしていける様、本人様・家族様のその時々ニーズに応じ、臨機応変に実践している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩、美化活動、その他行事の参加等で地域交流を図っている		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人様、家族様の意向を聞き主治医を決めている。定期的に往診を受け、必要時は家族様と相談し専門医院の受診が出来るよう支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医になっている。2週間に1度往診を受け、夜間急変時には相談できるなど24時間体制が整備されている。歯科医による訪問診療から毎週1回は口腔ケアを実施。適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康面は職場の看護職に相談、報告しており必要時は訪問看護を利用できるよう支援している		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護・看護サマリーを提出しスムーズに治療が出来るよう病棟NS、SWと連携をとっている。入院などが無い時も定期的にSWとの連絡を行っている	入院した場合は、本人のストレスや負担を軽減するために、家族等と相談しながら医療機関に対して本人に関する情報を迅速に提供している。夜間は良眠か食事や嚥下の状況等を報告して。日頃から連携室や病院関係者と良好な関係作りを心がけている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて本人様、家族様、往診医と話し合い本人様、家族様の意向を聞き家族様や関係者の方と一緒にチームで支援に取り組んでいる	契約時に指針をもとに緊急対応や対応し得る最大のケアについて説明し同意を得る。一度方針を決めても、想いは常に揺れます本人と家族の同意が得られるように状況変化のたびに何度も話し合う。看取り経験も多く安心して納得した最期を迎えられるようにチームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時のマニュアルに沿って定期的に研修を行い対応できるよう訓練をしている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼・夜間を想定し、年2回の避難訓練と水害を想定した避難訓練を行っている。エレベーターが使えない場合や外の避難が出来ない場合等も想定し行っている。地域の方へ応援要請できる体勢も築いている	災害避難訓練を昼・夜間を想定し年2回、各階利用者代表の参加のもと通常と異なる災害時の施設状況を想定して実施し、地域との応援体制も築いている。備蓄は、利用者別のサブザックに水、非常食や利用者毎に必要な品を入れ、職員質室に保管している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念のもとに、一人一人の自尊心を大切に、個々のプライバシーを保持するよう言葉遣いや言葉かけには注意を払って対応している	恥ずかしい事は決して行わない、職員が利用者に発している言葉の内容や語調等が、利用者の誇りを傷つけてたり、プライバシーを損ねるものになっていないか、日常的な確認とその場での改善を心がけ対応にととも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に希望を聞き一緒に考え、常に自己決定が出来るよう働きかけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、本人様のペースに合わせるよう努めている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを知り、更衣の時には職員がアドバイスをし、おしゃれを楽しんで頂き、2か月に1度の訪問理美容では、好みの髪形や毛染めをして頂くなど支援している			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好み、量、形状等個別に把握し食事を楽しんで頂き、個々の能力に合わせて調理、準備、片付けを職員と一緒にやっている	食事はその人に喜びや楽しみをもたらす。個々の力を活かしながら職員と一緒に盛り付けや皮むきなど調理の準備や片づけをしている。職員の見守りや支えがあれば力を発揮することができる。夏祭り等ではたこ焼きやバイキングを楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の摂取量を把握し毎日の体調に気をつけて水分量や食事量の調整を行っている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方は言葉かけし、磨き残しがあれば職員がしている。出来ない方は介助している。週1回の訪問歯科による口腔ケア、指導があり本人様に合った支援をしている			

自己	者第	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、個々に合わせたトイレ誘導やリハパン交換等声かけている。必要な方は排泄チェック表などでリズムを読み取るようにしている	トイレでの排泄を可能にするため、本人のリズムに添った支援と使いやすいトイレ環境に努めている。排泄の自立に向け退院後のオムツ使用の状況を全職員で検討し退院後の状態に戻ることを目標に丁寧にチェックし排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた水分量の調整や、運動を用いて予防に取り組んでいる。必要に応じて主治医に報告、相談を行っている		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の体調に合わせて入浴して頂くようにしている。シャワー浴や清拭も取り入れ本人様に合った方法で行っている。入浴が出来ない場合は手浴や足浴を行っている	職員が一方向的に決めず、利用者のその日の希望を確認し入っていただいている。入浴を拒む方には、言葉がけや対応を工夫し取り組んでいる。保清のために手、足浴に柔軟に変更できる。気持ちや習慣に合わせた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースを大切に、居室で過ごされる際は訪室をし安否確認をしている、体調に合わせて声かけをして居室で休めるよう室温、テレビ、電気などの環境整備に配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全てを理解できているとは言えないが、薬情は職員がすぐに見れる場所に保管し、薬の変更があった時は、様子を観察し主治医に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好きな事、得意な事、出来る事をして頂けるよう支援している。外気浴や散歩、レクリエーションなどで気分転換できるよう支援している		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は利用者様にコースを決めて頂いたり、家族様の協力で外出をして頂いている	外出はその人らしく暮らし続ける支援のため重要です。その日の体調に合わせ短時間でも戸外に出る機会を作り、散歩など本人の希望に沿いコースを選定したり、家族の仕事が休みには外食を楽しまれたり積極的に外出支援をしている。	

自己	者	第三	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
					実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される品を購入したり、本人様が自動販売機でジュースを選んで買えるよう支援している		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族様やご友人に電話して頂けるよう支援しているまた家族様や友人からの電話の取り次ぎも行っている		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気や室温調整を行い快適に過ごせる配慮と季節に合った壁画を一緒に作り居心地の良い雰囲気作りを工夫している	共用の空間は換気や室温調整を行い、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激がないよう配慮し、季節に合った壁画を一緒に作り掲示し、居心地良く過ごせる雰囲気づくりの工夫をしている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーはソファの配置に工夫し気の合う方同士でテレビを観られたり、談話をされたりと人気のスペースとなっている		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人様、家族様に説明し本人様の使い慣れた物や思い出の物を持って来て頂き配置することで、本人様が安心してくつろげる空間を作っている	入居時に本人や家族に本人の使い馴れたものや思い出の物を持ってきて頂き配置し、仏壇や思い出の写真、TV等本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の能力を理解し、し過ぎない支援に取り組んでいる		